

全国小中学生“紙リサイクル”コンテスト 2013 入賞者一覧

応募総数：1,053 点（応募校数：60 校）

① 作文小学生部門：270 点 ② 作文中学生部門：630 点 ③ ポスター小学生部門：82 点 ④ ポスター中学生部門：71 点

【金賞】

部門	都道府県	学校名	学年	氏名	タイトル
作文小学生部門	群馬県	大泉町立北小学校	5	神保 佑	リサイクルと資源
作文中学生部門	熊本県	学校法人鎮西学園真和中学校	2	宮元 菜那	命ある資源
ポスター小学生部門	青森県	八戸市立小中野小学校	6	鹿島 拓海	地球のためにリサイクル
ポスター中学生部門	宮崎県	宮崎県立宮崎西高等学校 附属中学校	2	向井 麻莉	資源つなげよう

【銀賞】

部門	都道府県	学校名	学年	氏名	タイトル
作文小学生部門	千葉県	浦安市立東小学校	3	森山 ひかる	紙リサイクルはおくがふかい
	東京都	荒川区立第三日暮里小学校	4	五十嵐 文音	紙リサイクルの工夫
作文中学生部門	群馬県	前橋市立南橋中学校	1	野上 菜歩	地球のために出来る事
ポスター小学生部門	福島県	会津若松市立鶴城小学校	4	遠藤 颯花	リサイクルしてまたかうよ
ポスター中学生部門	宮崎県	宮崎県立宮崎西高等学校 附属中学校	3	風晴 愛理衣	No Recycle No Future ～明るい未来につなげよう～

【佳作】

部門	都道府県	学校名	学年	氏名	タイトル
作文小学生部門	東京都	荒川区立第三日暮里小学校	5	室田 眞琴	紙はどうやってできているのか？
	神奈川県	横浜市立下野谷小学校	5	高木 聖也	紙のリサイクルについて
作文中学生部門	群馬県	前橋市立元総社中学校	1	石村 栞奈	あなたもチャレンジ！紙リサイクル
	千葉県	八千代松陰中学校	2	江口 芽依	地球に優しい循環型社会
	千葉県	八千代松陰中学校	2	大西 悠斗	まずは知ること、知ってもらうこと
ポスター小学生部門	宮崎県	宮崎市立恒久小学校	5	長池 涼芽	すてないで！大事な資源
	鹿児島県	さつま町立求名小学校	6	宮後 百花	捨てるならリサイクル
	鹿児島県	さつま町立求名小学校	6	菊野 夏怜	リサイクルで美しい自然を守ろう
ポスター中学生部門	埼玉県	上尾市立大谷中学校	1	井田 今日子	紙のリサイクルに取り組もう
	埼玉県	上尾市立大谷中学校	1	船木 みのり	リサイクルでつながる
	宮崎県	宮崎県立宮崎西高等学校 附属中学校	3	長池 優莉	紙リサイクルしなきゃもったいない！

《主催》：公益財団法人古紙再生促進センター

《後援》：文部科学省、読売新聞社、全国連合小学校長会、全日本中学校長会、全国市町村教育委員会連合会

全国小中学校環境教育研究会、段ボールリサイクル協議会

《協力》：教育新聞社

*日本製紙連合会会員企業有志が環境保全のため追加貢献として拠出した資金をもって実施する「古紙回収推進事業」の一環として本事業を行いました。

金賞作品紹介

作文小学生部門

大泉町立北小学校5年 神保 佑

「リサイクルと資源」

ぼくは、「気になる記号」という授業で初めて「紙パック」や「紙マーク」、「ダンボール」というリサイクルマークを知りました。

知らなければ、教えてもらわなければ、「もえるゴミ」として捨てていました。再生紙として生まれ変わり、生き続ける資源を、今は大事にできていると思います。

ぼくの住んでいる地区の子ども会では、年に2回廃品回収があります。トラックに一杯回収品が何回も集まりますが、半分以上は「新聞紙」と「雑誌」と「ダンボール」です。集めた分だけリサイクル会社へ回収した新聞、雑誌、ダンボールは売れるらしいのですが、売られた後はどうなるのか調べてみました。

リサイクル会社で働いていたおじさんがいるので話を聞いてみました。新聞紙を例にあげると、まず水を入れたミキサーに入れて、せんにになるそうです。しかしインクがついているので薬を入れてインクを抜くそうです。そのあとに紙になつたり箱になつたり生まれ変わるらしい。

く、けっこう手間がかかっています。そんなに大変ならば「もえるゴミ」でもやしてしまえばいいとおじさんに話すと、「手間をかけても、生まれ変わるべき資源をもう一度生き返らせる。日本は今までそれができなかつたから、今大変な思いをしているんだよ。そのためのリサイクルなんだよ。」と教えてもらいました。

あたり前のようにノートやダンボール、牛乳パックや教科書があるわけではなくて、資源があるおかげなんだと気づきました。もちろん資源はおわらせてしまうわけにはいきません。その為にリサイクルをもっともっと進めていかないと、日本の資源は今よりもっと大変なことになってしまいます。

廃品回収で集めてリサイクル会社へリサイクルしてもらっただけではなく、「リサイクルマーク」の入っている日本の大切な資源を、もっともっと気づいていこうと思います。もったいないという事だけではなく、日本の資源を守るために、コツコツ大人になっても大切にしていこうと思います。

金賞作品紹介

作文中学生部門

学校法人鎮西学園真和中学校 2年 宮元 菜那

「命ある資源」

九十五歳になる曾祖母。今は横になつて
いることが多くなつたが何年か前までは、
私が遊びに行くと、いつも本を読んだり、
鶴を折ったりしていた。その鶴は新聞の折
り込みチラシで作られていて、チラシを折
り紙のサイズにきれいに切り揃え丁寧に
折られていた。角がきつちり取られ、広告
の柄が色とりどりで一つ一つがとてもき
れいな鶴ができていた。

曾祖母はいつも、ものを大切にすること
を私に教えてくれた。そんな曾祖母を見て
育つた私は、チラシや学校からもらったプ
リントの裏を使い、絵を描いたり計算をし
たりしている。

そして、その後には必ず再生資源の原料
になるよう、回収してもらえよう私の家
ではリサイクルボックスに入れるように
している。リサイクルボックスは六種類あ
り、新聞・雑誌・段ボール・お菓子などが
入っていた箱・牛乳パックやその他の紙と
分け入れている。封筒はテープなどがつ
いていないか確認し、紙でないものを取り除
くことを忘れないようにひとりひとり
心がけて入れるようにしている。

小学二年生のとき、友だちが家に遊びに
来てリサイクルボックスを見て興味を持
つた。私はいつもしている分類のことを話
すと友だちは家に帰ってから家族にその
ことを話し、今までしていなかった分類を
みんなですることになったそうだ。後日、
その話を曾祖母にすると私の頭をなでて
喜んだ。そして、ものがなかった昔は家で
いろいろなものを作り、繰り返し繰り返し
使つたことや、浴衣からおしめ、おしめ
から雑巾に形を変えて使い続けたことを
話してくれた。また、大切に扱うことで繰
り返し使え、ごみを減らし、資源になるの
だと教えてくれた。

私が普段している分類は小さなことだ
が、ひとりひとりの小さな心がけで大きな
資源が生まれ、そして私たちが豊かに暮ら
すことができる。命ある資源を無駄にしな
いよう、これからも私のできることを見つ
け、みんなと取り組んでいきたいと思う。

金賞作品紹介

ポスター小学生部門

八戸市立小中野小学校6年

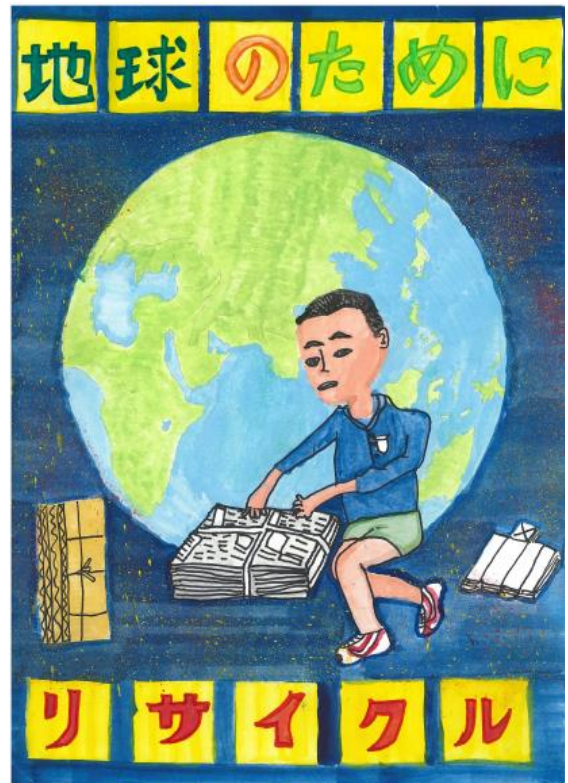
鹿島 拓海

「地球のためにリサイクル」

コメント

森林破かいがすすむと、二酸化炭素の増加による温暖化、気候の変化による砂ばく化などの深刻な問題が発生すると勉強しました。

新聞や牛乳パックやダンボールは大切な資源なのでリサイクルを心がけましょう。



ポスター中学生部門

宮崎県立宮崎西高等学校附属中学校2年

向井 麻莉

「資源つなげよう」

コメント

新聞紙と牛乳パックがしゃぼん玉で遊んでいるところです。新聞紙や牛乳パックなどのいらなくなった紙から、絵本やトイレットペーパー、ティッシュなどができるということを、新聞紙たちの手からうまれるしゃぼん玉で表しました。



銀賞作品紹介

作文小学生部門

浦安市立東小学校3年 森山 ひかる

「紙リサイクルはおくがふかい」

「紙リサイクルっておくが深いねー。」イ
ベントで、紙リサイクルの勉強をした時、
だれかが言いました。私は心の中で“お
くが深いって何だろう”と考えていまし
た。
家に帰って、私はお母さんに今日の話
をしました。
「お母さん、紙のリサイクルってね、
何でもかんでも新聞整理袋に入れちゃダ
メなんだよ。それからね、のりとかセロ
ハンとかついているのは、大変な事にな
っちゃうから、いっしょに入れてはいけ
ません、だって。それからねそれからね
……。」
お母さんの顔は、かん全にヤバイっ
て顔をしていました。
「えーっ……。」と小さな声を出しました。
きつとこのあとには、“今までぜんぶいれ
ちやってたよー。どうしよう……”が続き
そうです。
私は、おくが深い、を知りたかっただ
けでした。しかし、お母さんは、おくが
ふかいとか、もうどうでもいいようでし
た。

次の日、これまで一つしかなかった新聞整
理袋が四つになっていました。
一つは新聞・広告。一つはざっし。一つ
は雑紙といわれる紙。ここに入れるときは
気をつけなければいけません。のりやセロ
ハンのところをとりのぞきます。私が目を
ひからせています。さいこの一つが、よく
分からない用です。あとでゆっくり考えま
す。
ていねいに分ければ、しげんになりま
す。でも、ていねいに分けることは、なか
なか大変です。
おかあさんが、「紙のリサイクル工場、
こんど見学に行こうね。」と言いました。
私はうれしくなりました。おくが深い、が
少し分かるかもしれないな。

銀賞作品紹介

作文小学生部門

荒川区立第三日暮里小学校4年

五十嵐 文音

「紙リサイクルの工夫」

私は、図書室でリサイクルについての本をかきました。前に学校で紙リサイクルについて学んだので、すこしきょうみがありました。調べると学校で習ったいいにも、いろんなリサイクル方法があり、リサイクルには工夫や仕組みがあることが分かりました。

まず、紙リサイクルを調べたかったので、目次からえらんで「紙のリサイクルのしくみをしろ」という題名のものを読みました。

私は紙がどのように変わるのかふしぎでした。最初はミキサーのような物でほぐし、かためて紙にしているかと思っていました。でも、思っていたいじょうにたくさんの機械を使い、手間をかけ、きれいで新しい紙にかえていました。たとえば、シツクナーで脱水したり、スクリーンで異物を取りのぞいたり、少しの紙を作るのにたくさんの工夫がされていると知ってすごいなと思いました。

つぎに私は、家庭で出来るリサイクルを調べました。私の家では、ダンボールをまとめて出しています。前に社会科見学で、「このままだと、あと五十年でゴミをうめる場所が無くなってしまうんだよ。」と聞き、少しでもゴミをへらすことが大切なんだと知りました。その後、家ではリサイクルに心がけています。でもリサイクル出来る物がほかにもあるのではないかと思い、調べました。調べてみると、知らなかったことがたくさん

あって、おどろきました。たとえばティッシュ箱を本だなや、ゲームソフト入れにしたり。また、おかし箱をプレゼントの箱や、小物入れにしたりなど、今まで思いつかなかった物がたくさんあったので、今度家でもやりたいと思いました。また、牛乳パックのはがき作りを見た時に、牛乳パックのものは紙だから、はがきが作れることを知り、牛乳パックは紙リサイクルが出来るのだとわかりました。

もし、紙リサイクルをして、出来る物があつたら、お手紙セットが良いです。牛乳パックのはがき作りのような作り方で真っ白なのが良いです。はがきは年賀状などでしか使わないので、手紙セットだったら友達とやる事が出来るからです。それに真っ白だったら、自由に絵を書いてオリジナルが作れるからです。

私たちの学校は今年で九十五周年をむかえました。それを祝って今年は、学習発表会が行われました。私たち四年生は、地球にやさしい町日暮里というげきをやりました。リサイクル博士なども登場して、小さい子にも分かりやすく説明しました。最初の方では、ティッシュの空き箱をすてている子を「ちよつと待って！それリサイクル出来るよ。」とみんなで教える場面があります。このように、みんなで教え合ってリサイクルを心がけることも大切だと思います。そして私も、リサイクルをこれからも心がけていきたいです。

銀賞作品紹介

作文中学生部門

前橋市立南橋中学校1年 野上 菜歩

「地球のために出来る事」

我が家では、三、四年くらい前から地域の雑古紙回収に取り組み始めました。まだ雑古紙の回収に取り組んでいる家庭は、あまり多くは、ないと思います。ゴミ袋やゴミ箱とは違い、雑古紙用のゴミ袋を、作り、家族みんなが、長時間過ごしたり行き来する事が多いリビングとキッチンの中に設ける事にしました。

最初の頃は、すごくめんどろに感じたり、家族全員の理解や協力がなかなか得られず大変でした。私自身も時々間違えて雑古紙を、ゴミ箱に入れてしまったりした事がありました。

ただ今では、家族全員がめんどろに思わず、雑古紙回収に取り組む事が出来ています。

では、どうしてめんどろに思わず雑古紙回収に、取り組む事が出来るようになったのか考えてみました。

それは、おそらく、家族同士の声かけの成果だと思っています。たとえばゴミ箱を見て雑古紙が入っていたら、雑古紙袋に入れながら、それを、捨てた人に「それは、雑古紙だよ。」などと注意しあったり、トイレやキッチンなどで出た雑古紙は、

雑古紙袋の前を通りそうな家族に渡し、まるでリレーのバトンのようにして捨ててもらったりしています。

このようにして雑古紙に対する意識が高まって、家族全員がめんどろに思わず取り組む事が出来るようになりました。今では、雑古紙の事を「エコ紙」と呼んでいます。

今までを振り返ると取り組む前は、雑古紙はたんなるゴミになっていたけどこうして、地域の雑古紙回収に取り組む事により、また新しくそして立派な紙製品に生まれ変わる事が出来るのです。私は、これからの地球環境の事も考え雑古紙回収に取り組んでいきたいと思います。まだ取り組んでいない人は、意識を、少しだけ変えてみてはいかがでしょうか？家族とのコミュニケーションもはかれ、地球環境も良くする事が出来ます。

銀賞作品介绍

ポスター小学生部門

会津若松市立鶴城小学校4年

遠藤 颯花

「リサイクルしてまたかうよ」



ポスター中学生部門

宮崎県立宮崎西高等学校附属中学校3年

風晴 愛理衣

「No Recycle No Future ~明るい未来につなげよう~」

コメント

紙リサイクルが、いかに未来を明るくするものであるか。それを絵にして、全面的に、紙リサイクルの魅力を伝えたいと思いました。そのためにあえて抽象画にしています。一目みただけで、紙リサイクルに自分も協力しようかなと思うようなポスターをデザインしました。

“No Recycle No Future”という主題には、「明るい未来にリサイクルは欠かせない！」という強い思いがこめられています。1人1人が少しずつでも地球のことを気づかった行動を心がければ、必ず私たちの未来は明るくなっていきます！

そして特に、その地球の未来をになうのは私たち若い世代です。だから、若い人たちに向けても訴えるようなポスターにしたいと思い、デザインしました。

私たちの毎日の小さな心がけ・紙リサイクルによって、私たちは地球の未来を明るくすることができるのです！

